

考現学或いは当事者

東京大学 特任教授・建築学

松村秀一

Shuichi Matsumura

池袋の女子

「そんなことも知らないで、よく他人様の前で講演をしたり、雑誌や本に偉そうなことを書いてたりできるわね」。家ではこうしたそしりを受けることしばしばだが、今回はいつもよりきつく言われたように感じた。

その日は豊島区で勉強会があった。二〇一四年、日本創成会議人口減少問題検討分科会の推計による「消滅可能性」八九六自治体の中に東京都二三区の中で唯一入った豊島区。それ以来或いはそれ以前から取り組んできた同区のまちづくりについて、担当者の方の説明付きで現地見学をさせてもらったのだ。

区立小学校の跡地と民地だったところに、超高層マンションを上のにせる形で実現した区役所を含む複合ビル。鬱蒼と草の茂っていたようなところが、人々が寝転んだり飲んだり語りたりできる伸びやかな芝生の広場に姿を変え、今や人気のスポットになっている南池袋公園。そこから池袋駅までの間、街路樹の植わる歩道を拡幅し、飲食店の張り出し等も可能にしたグリーン大通り。星野リゾートが新しいコンセプト

トのホテルを建て、道を挟んだ向かいでは、古くて小さな木造建物の密集地が新たな飲食の場にリノベーションされてきた大塚の駅前。そして、元の区役所の跡地に女性化粧室階が二層もある劇場やシネコンが建ち、反対側の西口では大きな再開発事業が始まるという池袋駅周辺。短時間ではあったが、丁寧な案内して頂いた。

どれも興味深いものだったが、池袋駅とサンシャイン60の間のエリアを歩いたのがとても久しぶりだったので、そのエリアの変わりよう、特に中高生も含めて若い女性が多いのには驚いた。一昔前のイメージだろうが、私にとってはこの辺りも「夜の池袋」という印象なのだ。旧区役所跡地に劇場とシネコンが建つというのは、そのエリアのすぐ隣だ。

区役所跡地のよく見える路上で説明を伺っていたのだが、目の前にある一〇階建て程の商業ビルに若い女性たちが次々と吸い込まれていく。「中高生を中心に、『聖地』とも言われているんですよね、あのビルは。今や全国に展開する『アニメイト』さんの発祥の地はここ池袋なんです。あれが本店ですから、全国からここを目掛けてやってくる女子も多いのですよ」と、区

役所の方も誇らし気だった。聞けば、かつてオタクと言われた人たちが向かう場所は、男性か女性かで、秋葉原と池袋に分かれたのだそうだった。帰宅して無知のそしりを受けたのは、この話をした時だった。そんなことを今まで知らなかったこと自体、信じられないというのである。「恥ずかしいからそんな話は外でしないでよ。お父さん以外の人は皆知っていることだから」と言われてしゅんとしていたが、本当にそうなのか、本当に皆知っているのか。

無知なオヤジ達

ということ、私より少しだけ若い五十代の建築関係の男性、しかも首都圏に住んでいる十数名に聞いてみた。案の定、半数以上の者は知らない。知っていたのは、自らオタク系だった二人と、編集者の一人、豊島区でも実績のあったゼネコン設計部の一人、そして池袋のこのエリアを自分の庭だと称する女子高生を娘に持つ一人。知るべき特殊環境にある者ばかりだった。けれども、私自身も含めて、人々の生活する環境や空間を専門に扱う建築系の五十代（筆者は六十代だが）、現役のオヤジ達が、自分たちの

二つの教え

暮らす東京の、しかも大ターミナル駅のすぐそばで起きている現象、多くの人々の活動に関わるこういう事柄を全く知らないというのはいかなものだろうか。冷静に顧みると、この建築関係のオヤジ達の無知は問題だと思ふ。特に、ただ頼まれたものを建てていけば良いという時代を通り過ぎ、ストックの利用も含めて人々の暮らしの場の全体について思いを巡らせるべき時代を迎えている現代日本にあって、この無知は、我が事ながら見過ごすわけにはいかない。

五十代を過ぎた私達の場合はもう手遅れかもしれないが、関連して思い出した大事な教えを二つ挙げておこう。

一つは、一九二〇年代に「考現学」を創始した今和次郎の教え。今さんは、関東大震災後のバラック建築の調査に始まり、銀座での風俗記録、本所深川での風俗採集と、都市に出て「現」に動いている人々の風俗を悉皆調査的に記録、採集することの面白さや大切さを世に示した。考古学ならぬ考現学の始まりである。今さんの考現学は、都市を計画する上で、現

在進行形の都市風俗をよく観察し、分析することが重要だという教えでもあった。

そう言えば、リノベーションや公民連携によるまちづくりの世界を先導するアフタヌーンサイエティの清水義次さんも、都市のことを考える上で今さんの教えこそ真っ先に学ぶべきものだと、以前から繰り返し訴えていた。

さて、いま一つは、そのリノベーションまちづくりの世界でよく言われる「当事者たれ」という教え。これは誰がいつ発したのが最初かわからないが、スピーチや講演で耳にする機会が多い。「当事者」と同じ意味でよく用いられる言葉に「自分事」というのもある。

今よりもっと豊かで楽しい暮らしの場を求めるとなれば、自分のまちに自ら当事者として関わるべきだという教えである。これには都市風俗をよく観察、分析することも必要だろうが、単に観察、分析しているだけでは足りない。自ら責任を持って、そのまちに飛び込んで行けという意味が含まれている。

軽く笑い話ですましてきた無知。そんな私も、考現学の教えや当事者たれという励ましに耳を傾けるべき時期なのだと思ふしきりではあった。